

社会福祉士・精神保健福祉士指定科目におけるアクティブ・ラーニング の展開

社会情報学部 健康福祉学科 鶴岡和幸

はじめに

健康福祉学科の科目構成は幅広く社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格や健康運動実践指導者資格取得を中心とした科目群で構成されている。また、学生の構成も多様であり、授業を履修する学生も資格取得を目的とした者から単位取得を目的としたものまで幅広い。そうした中で、以前から講義系科目における効果的な講義方法の1つとしてのアクティブ・ラーニングの導入に必要性を感じていたが、自身に技術が不足していたこと、また、アクティブ・ラーニングに対する理解が不十分であったことから導入が限定的であった。

2017年度より日本ソーシャルワーク教育学校連盟が行っているソーシャルワーク教育全国研修大会に参加し、授業においてアクティブ・ラーニングを導入し取組を行っている報告¹⁾を聴講した中からヒントを得て、いくつかのアクティブ・ラーニング技法の導入・実践することとした。展開していく中で課題はあるものの、導入したことで学生の授業参加度を高めるだけでなく、授業理解度を可視化することが可能となった。

1. 授業科目等について

(1) 授業科目

今回は、本学で開講している社会福祉士および精神保健福祉士指定科目のうち社会福祉士の指定科目である「高齢者福祉論(Ⅰ)(Ⅱ)」および「ソーシャルワークⅡ・Ⅳ」で実施している取組を取り上げる。両科目とも社会福祉士受験資格取得に必須となる講義系科目であり、専門科目である。

「高齢者福祉論」は、高齢者福祉に関する内容全般を含む科目であり、高齢者福祉の歴史から各種制度だけでなく、介護技術まで幅広い内容を網羅している。

「ソーシャルワーク」は、社会福祉援助技術の

直接援助技術(ケースワーク)の展開過程や面接技法およびソーシャルワークの歴史、アプローチモデルに関する内容を中心とした科目である。

(2) 履修学年および履修者

両科目とも2年生対象で履修者は約30名程度であるが、このうち社会福祉士受験資格取得希望者は半数の15名程度。残り15名の内訳は、社会福祉には興味があるが、社会福祉士受験資格取得までは希望しない学生および社会福祉に関心がなく卒業するための単位取得が必要な学生で構成されている。

2. 使用した技法

使用した技法は、アクティブ・ラーニングのツールとして知られている「大福帳」。2017年度日本ソーシャルワーク教育全国研修大会で東京成徳大学の江間由紀夫先生から報告のあった「持ち込み用紙」からヒントを得て、定期試験の際に勉強すべき内容を具体的に示して記入することができる「まとめシート」。そして、授業モデルを活用したアクティブ・ラーニングの展開を実施している。

3. 展開

(1) 大福帳

大福帳を導入したことによるメリットとしては、受講している学生が、①当日の授業内容をどの程度理解できているのかを把握することができる。②授業の欠席確認を確実にに行える。③講義への参加度合いが確認できるなどが挙げられる。

記入している内容に対して、原則コメントを入れ返却するとしているが、難しい場合は、「Very Good」「見ました」などのスタンプを数種類準備し、毎回チェックしていることを伝えるよう心掛けた。大福帳は定期試験に持込める補助プ

プリントでもある。そのため授業の要点を押さえて、整理されている大福帳については、授業開始時に紹介した。こうすることで、各自が自分の大福帳との違いを気づけるよう促すだけでなく、不足している部分を書き足すことができるよう各学生が積極的に活用できるよう配慮を行った。なお、大福帳を活用した授業の展開方法については図1の通りである。

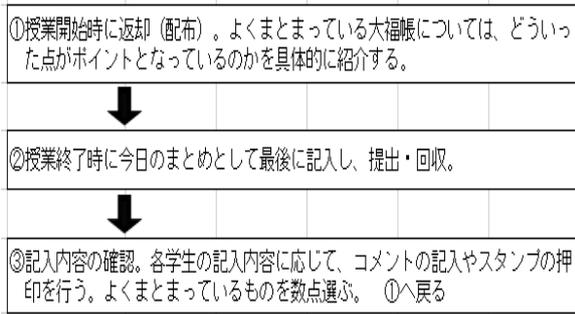


図1 大福帳を活用した授業の展開方法

(2) まとめシート

まとめシートとは、各講義でポイントとなったキーワードを抜き出した用語をまとめたものである。裏面は各学生が創意工夫を凝らして自由に活用できるように白紙にし、かつ、A3サイズとした。大福帳と同じく試験に持込むことが可能なプリントである。図2はまとめシートの一部を示したものである。このシートは15回目の講義で配布するだけでなく、記入するポイントについても説明を行った。キーワードの抜き出しについては、授業で配布したレジュメや教科書と連動するよう注意しながら用語の選択を行った。



図2 まとめシート（高齢者福祉論）

なお、まとめシートは、各学生の試験に向けた学習成果でもあることから、試験終了時に提出し

てもらい、試験用簡易ルーブリック（表1）と連動させ、成績評価へのポイントに加えることとし、学習に対する意欲を持たせるようにした。

表1は試験用簡易ルーブリックであるが、これらの基準については、事前に学生には示していない。また、評価はSからDまでであるが、D評価はマイナスとはせず、加点無しとした。なお、試験終了時には各学生に返却している。

表1 試験用簡易ルーブリック

	S	A	B	C	D
【記述方法】 文字数、わかりやすさ、見やすさ	記述ができ、色をつけるなどわかりやすく、見やす（記述ができている	6割以上の記述ができ、わかりやすく、みやすく、記述できている	5割以上の記述ができ、みやすく、記述できている	5割以上の記述ができているが、乱雑で内容が分かりにくい箇所がある	空白が多し記述ができなく、記入や内容が分かりにくい箇所が多い
【内容の理解】 ポイントの記述、意図の理解など	ポイントを6つ以上記入しており、高齢者福祉の意味を十分理解できている	ポイントを6つ以上記入しており、高齢者福祉の意味を理解できている	ポイントを4つ以上記入し、高齢者福祉の意味を理解できている	ポイントを2つ以上記入し、高齢者福祉の意味を理解できる	ポイントの記入がなく、高齢者福祉の意味を理解できない。

(3) その他の取組

高齢者福祉論の一部の実施回において、授業モデルを作成し、講義内容の見直しと連動（活用）できるAL技法の検討を行った。これは、2018年度に日本ソーシャルワーク教育学校連盟が行ったソーシャルワーク教育全国研修大会に参加し、授業設計ワークショップ～アクティブラーニングの基本的考え方³⁾を聴講し導入したものである。授業展開における工夫として行った内容は、“問いかけ”と“考える時間”の設定である。講義系科目としてはありがちな制度説明や解説による一方向の講義とならないよう、可能な限り“問いかけ”と“考える時間”を授業中に設定を行った。これらは、学生に意見を求めるものであることから学生をランダムに指名し、発言を求めた。そうすることで、学生は適度な緊張感をもって授業に参加しているようであった。授業モデルの導入にあわせて、講義内容の見直しとレジュメの改定を行った。

その他、一部授業で、Think-Pair-Shareを導入したが、実施する際のペアの作り方や事前の理解度の確認など運用面で大きな課題を残しており、その点を改善して導入していきたい。

4. 課題

今後の課題として、大福帳は、現在、オリジナルをそのまま使用しているため、授業内容を各自

でまとめて記入することが主となっている部分もあることから、次年度に向けては、小テストの解答欄を加えるなど若干の修正を加えたもので活用したい。また、記入内容について、特に制限がないことから一部の大福帳については、終始自身のプライベートを書いて提出するものも見受けられた。今後、各学生が記入した内容（授業への質問や感想など）について、まとめることができれば、各回の講義内容の授業改善へ繋がると思われる。

まとめシートについては、先にも触れたように定期試験の際に勉強してほしい（押さえておいてもらいたい）内容をこちらから具体的に示して記入できる様式であり、学生には成績評価に加えるプリントであることも周知したが、全体の約3割が裏面の記入がない状態で提出されていたり、指示のあった部分だけ記入しているプリントも見受けられた。新しいまとめシートについては、試験用簡易ループリックを示すことで改善がみられるのではないかと考える。

参考文献

- 1) 江間由紀夫：ソーシャルワーカー養成におけるアクティブ・ラーニングの課題，2017年度ソーシャルワーク教育全国研修大会，2017.
- 2) 江間由紀夫：社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムにおけるアクティブ・ラーニングの試み，東京成徳大学人文学部・応用心理学部研究紀要，Vol.25，pp.73-81，2018.
- 3) 榎原暢久：授業設計ワークショップ～アクティブラーニングの基本的考え方・半期の授業設計・1コマの授業設計～，実践力のあるソーシャルワーカーを育てる「教授法」，2018.
- 4) 佐藤浩章：講義法（シリーズ大学の教授法2），玉川大学出版部，2017.